

保存

「地」の調整

下地の平滑仕上げ

下地は平滑に仕上げてください。ネジ・クギ類は施工後の変色を避けるため、突起を完全に改めてサビ止めをしてください。

下地に応じたシーラー処理を

木質系、合板下地、コンクリート下地、モルタル下地に重層施工すると、壁紙にシミや変色が発生することがあります。シーラーで下地処理をしてください。シーラーは壁紙の撥染不良や剥がれを防ぎます。

下地と同色のパテを使用

施工後、下地の色が透けて見える場合がありますので、パテは下地と同色のものをご使用ください。

下地は乾燥させてから

パテやシーラー処理、モルタル下地、コンクリート下地に重層施工する場合、下地が十分に乾燥（水分率11%以下）してから施工を始めてください。湿気を帯びていると、壁紙の変色・剥がれ・かびが発生することがあります。

塗料が下地に付着している

塗料・扉材の塗料（ペンキ、オイルステイン）が下地に付着している場合は、必ずシーラー処理をしてください。変色や剥がれ、目スキを防ぎます。

リフォーム時

張り替え時、以前張り付けていた壁紙の裏打ち紙が残っている場合、残った裏打ち紙は完全に剥がしてから張ってください。そのまま施工すると、目スキや浮きが発生させます。

施工糊／折りジワについて

糊メーカーの注意事項を確認

施工時の希釈は、糊メーカーの指定割合を守ってください。塗布量は140～160g/m²を目安とし、均一に塗布してください。塗布量の不足は、壁紙の相副さや接着不良を生じさせます。下地の種類と状態、湿度、湿度に合わせてエチレン酢と希釈剤などを適量添加してください。

糊付け後の注意

壁紙を糊付け後、きつく折りたたんだり、湾曲部に荷重がかからないようにしてください。折りジワが付くと元に戻らない場合もあります。特に汚染防止や素材壁紙はご注意ください。

折りジワについて

折りジワについて注意文がある商品は、取り扱いに注意が必要です。折りジワが付くと表面の塗膜や素材が割れ修復出来ない場合もあります。

壁紙は伸び縮みします

壁紙に糊付け後、室内環境及び壁紙の品種に応じたオープンタイム（養生時間）を取ってください。適切なオープンタイムは施工を容易にするとともに、剥がれや目スキの発生を防ぎます。

付着した糊や汚れの処理

壁紙の表面や回り縁等に糊、汚れなどが付かないように注意してください。付着した場合は、きれいな水を含ませた布で直ちに拭き取り、最後に乾拭きを行ってください。特に濃色の壁紙は糊の拭き残しにご注意ください。糊が付着したままで放置するとかびや変色の原因になります。素材壁紙は固く絞ったスポンジで叩くようにした後乾いた布で丁寧に拭き取ってください。

糊付け後の折りジワを防ぐポイント

- ① 剥がれる数を制限する
ゆるやかに大きくたたみ、重ねも2～3枚以内にしてください。(図①)
- ② 壁紙を巻く
壁紙に糊付けた後、壁紙をたたまないでヘリにカットテープ（養生用プラスチックテープ）を付け、頭としりをこのテープを挟んで合せふわりと置き、重ね置きをしないでください。(図②)
- ③ 段のあるものは用紙にした上で軽く巻く、必要なオープンタイムをとってください。その際、重ね置きをしないでください。
④ 壁紙をプラスチックの袋などに入れる
糊付け後の壁紙は、プラスチックの袋や容器に入れて乾燥があまり早く進まないようにオープンタイムを取るのが最も良い方法です。

糊付け後のたため方



※参考資料：壁紙施工図解集 糊付け・乾燥に関する壁紙に関する11の注意

養生

粘着テープは使用しないでください

粘着性の強いマスキングテープ（養生テープ）の使用は避けてください。粘着性の強いものであっても張り付けたまま長時間放置しないでください。粘着剤が壁紙に移行し、変色や汚れの原因となります。また、テープを剥がすときに壁紙を破損することがあります。

副資材について

パテ・シーラー・糊は、必ず壁紙施工専用用品をご使用ください。専用用品以外のものを使用すると、目スキ、剥がれが発生させることがあります。副資材メーカーの施工要領・取扱注意事項を必ずご一読ください。

壁紙選択上のご注意

防火性について

建物の内装仕上げについては、建築基準法による防火上の基準が設けられています。防火性能は、下地基材と耐火認定材料の組み合わせ及び施工方法によって変わりますので、詳しくは別冊冊表の防火性能欄をご覧ください。

機能性壁紙について

機能性壁紙をご利用の際は、それぞれの特徴や注意点をご理解の上、ご使用ください。

柄合せ商品について

柄合せに必要な商品は、無地よりも要尺が多くなりますのでご注意ください。見本帳などの「柄りビード」表示を参考に柄合せしてください。

壁紙の柄の見え方について

壁紙は同じ柄の繰り返しで作られているため、光の当たり方・見る角度などによって柄の繰り返しが目立つ場合があります。あらかじめご了承ください。

使用環境について

高温、多湿、水濡れの環境や、屋外での使用は避けてください。

施工費について

商品の施工難易度の違いや現場の状況に応じて施工費が増える場合があります。あらかじめ商品の特性や現場の状況などを確認の上、商品選択をお願いします。

張り付け

有効巾について

壁紙は必ず見本帳に表示している有効巾でご使用ください。重ねしろは有効巾に含まれません。有効巾以外での使用は左右の色違いが発生させます。

張り出し確認

壁紙を2巾張った後、商品に問題がないことを確認した上で作業を行ってください。問題のある場合には販売店までご連絡ください。3巾以降の作業が進行した場合、施工費増額につきましては原則としてお受けいたしかねますのでご了承ください。

石膏ボードを切らない

重ね切りを行う場合は石膏ボードの表面紙まで切り込まないようにご注意ください。目スキが発生する原因となります。

カットに地べらを使わない

地べらを使った重ね切りは避け、必ず定規をご使用ください。地べらを使うと切り口が鋭めになり目スキの原因となります。

ローラーがけは力まずに

ローラーがけは、強くかけ過ぎないでください。クセが残ったり、光沢ムラが発生させます。横で付け、空気抜きは、タテ方向を基本に行ってください。強く横推すと、数日後に目スキが発生することがあります。

ジョイント位置について

ジョイント位置は、端部同士で施工してください。壁紙の端部と壁紙の中央部でジョイントした場合には色差が生じることがあります。

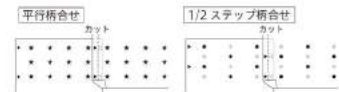
ジョイントマーク・天地マーク

▶ジョイントマークは壁紙の両側にございます。(商品特性上、ジョイントマークがない場合があります。ご了承ください)

↑天地マークは壁紙の片端または裏面に入っています。

柄合せについて

ジョイントマークを目安に柄を併せて施工してください。柄合せに必要な商品は、見本帳にリビードを表示しています。見本帳のリビード表示に「エンボス」または「プリント」と表示しているものについては、その表示にしたがって柄合せをお願いします。柄合せに必要な商品は、無地よりも要尺が多くなりますのでご注意ください。「無地張り可」と表示のある場合は、柄合せの方がより美しく仕上がりますが、柄合せしなくてもジョイント部が目立ちにくいタイプです。ステップ柄合せの商品は1/2ステップと表示しています。



建物の構造に適した施工をお願いします

プレキャストコンクリート、ALC板などは建物の構造上、板の継ぎ目部分を慎重に逃げ場にしてあります。これをまたいで壁紙を張ると、剥がれ、まじれ、割れなどが発生します。このような場合、紙と樹脂でできている壁紙では防ぐことはできません。

入隅の場合、下地の継ぎ目に併せて壁紙もジョイントするようにしてください。

木製の柱、胴縁、木製パネルにボードを付けた下地の場合、木材の乾燥による下地の動きにつれて、継ぎ目や、出隅、入隅にすき間が生じることがあります。この場合も上記同様、入隅でジョイントしてください。

施工後は自然乾燥を

施工後は接着が安定するまで自然乾燥させてください。施工中・施工後とも冷暖房などによる急激な室温の変化は避けてください。割れ、目スキが発生します。施工時の臭いが残っていますので、施工後1～2週間必ず換気を行ってください。